

平成28年度文部科学省委託「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」

幼稚園における「やまぐち型地域連携教育」の推進 ～幼児教育長期研修を活用した地域連携教育を通して～



平成29年3月

山口県教育庁義務教育課

～目 次～

はじめに

1 幼稚園における「やまぐち型地域連携教育」の推進

(1) 研究概要について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

(2) 「やまぐち型地域連携教育」について・・・・・・・・・・・・ 5

<実践報告>

実践報告について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

地域を題材とした遊びの実践報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

モデル地域等における実践報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

先進地等から学ぶ～視察等訪問報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

<成果と今後>

成果の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

課題と展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

2 幼保・小連携のための参考資料 ～幼児教育長期研修派遣教員の実践より～

接続期カリキュラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

交流計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

スタートカリキュラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

おわりに

はじめに

平成27年12月に示された「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」（中央教育審議会）では、全ての公立学校において、地域や保護者等が学校運営に参画する仕組みとして、コミュニティ・スクールを目指すべきであるということや、従来の学校支援地域本部、放課後子供教室等の活動をベースに、「支援」から「連携・協働」、個別の活動から「総合化・ネットワーク化」を実現するための新たな体制として、「地域学校協働本部」の構築を目指すべきであるということが示されたといえる。

国の動向に先駆け、山口県では、「元気創出！未来開拓チャレンジプラン」において、「地域教育力日本一」を目指すこととし、県教育委員会においては、「未来を拓く たくましい『やまぐちっ子』の育成」に向けて、小・中学校のコミュニティ・スクールが核となり、「地域協育ネット」の仕組みを生かして、各中学校区で地域のネットワークを形成し、学校・家庭・地域が連携・協働することにより、社会総がかりで子供たちの学びや育ちを見守り支援する「やまぐち型地域連携教育」を推進している。

その中で、幼稚園では、幼児期から児童期までの発達や学びの連続性を踏まえた、きめ細かな指導体制を構築するため、幼稚園と家庭、地域、小学校との連携を進め、幼児教育長期研修派遣教員を中心に、幼児と児童の交流や教職員同士の交流、接続期のカリキュラムの作成等が県内各地で行われている。

一方、山口県では少子化や核家族化が進み、園児数が10数名という公立幼稚園もあり、日常生活の中で、人と触れ合う機会が減少している。地域社会とのつながりも希薄となり、住む地域への親しみや愛着を感じる機会も少なくなっていることから、幼稚園においても、地域との連携、地域の人材を活用した取組が組織的、計画的に行われる必要があるのではないかと考える。

そこで、本年度は、研究テーマを「幼稚園における「やまぐち型地域連携教育」の推進～幼児教育長期研修を活用した地域連携教育を通して～」と設定し、幼児教育長期研修派遣教員を中心に、幼保・小連携とともに地域との連携の在り方について検証することとした。

本調査研究をきっかけとして、県全体でその成果を共有していくことで、地域とともにある幼稚園づくりへの機運を醸成し、子供たちが地域で豊かな体験を積み重ねることで、本県の教育目標である「未来を拓く たくましい『やまぐちっ子』の育成」につなげたいと考えている。

1 幼稚園における「やまぐち型地域連携教育」の推進

- (1) 研究概要について
- (2) 「やまぐち型地域連携教育」について



(1) 研究概要について

<研究テーマ>

幼稚園における「やまぐち型地域連携教育」について
～幼児教育長期研修を活用した地域連携教育を通して～

<研究の目的>

- 子供の「学びの芽」「学びに向かう力」を育てる上で必要な他者との関わりの機会を増やすため、地域と連携し、地域の人材を生かした幼児教育の在り方、幼稚園における「やまぐち型地域連携教育」の在り方について調査研究する。
- 子供が社会の一員として活躍できる素地を養うために、幼児が地域の人々と主体的に関わり、地域社会に親しみ愛着を持つことができるよう、山口県独自の「地域協育ネット」の仕組みを生かし、幼稚園を核とした地域とのつながりの在り方、幼稚園のコミュニティ・スクール化に向けた取組等について調査研究し、その成果をまとめ、全県的な研究会等を通して普及する。

<研究内容>

① 地域連携教育調査研究実行委員会の設置と運営

- ・小学校長，幼稚園長，保育所施設長，行政関係者（山口 CS コンダクター）等で構成する委員会で，地域と連携した幼児教育の在り方について協議・検討する。
* 山口CSコンダクター：各コミュニティ・スクールの取組の充実や水準の向上，小中連携の取組を推進するため，各学校を訪問し，支援・助言等を行う。
- ・コミュニティ・スクールを設置している幼稚園を視察し，組織化に向けての具体的な方策を調査する。
- ・調査研究している取組を県主催の幼保・小合同研修大会「つながる子どもの育ち大会」や「やまぐちコミュニティ・スクール推進フェスティバル」において発表し，研究の検証と成果の普及を図る。

② モデル園における地域連携教育の実施による検証

～幼児教育長期研修教員の活用～

- ・平成28年度の幼児教育長期研修の派遣園をモデル園として指定し，本研修生を園内コーディネーターとして，在籍校におけるコミュニティ・スクールの活動や地域の人材を生かし，幼稚園と地域が連携した教育の在り方について検証する。その際，大学教員による専門的な講義を設ける。
- ・地域との連携を進める過程において，幼児の変容等を記録し，その成果を検証する。
- ・「接続期のカリキュラム」を見直し，地域との連携を計画的に位置づけた新たなカリキュラムを提案する。

③ モデル地域による幼稚園のコミュニティ・スクール化への取組の実施

- ・平成28年度幼児教育長期研修の派遣園の中で，小学校と隣接している地域を

モデル地域として指定する。

- ・地域との連携を継続するための組織づくりに向けて、モデル地域の小学校と幼稚園の拡大学校運営協議会（仮称）を開催する。その成果等をまとめ、「やまぐちコミュニティ・スクール推進フェスティバル」において発表し、幼稚園における「やまぐち型地域連携教育」の在り方について県全体に提案する。

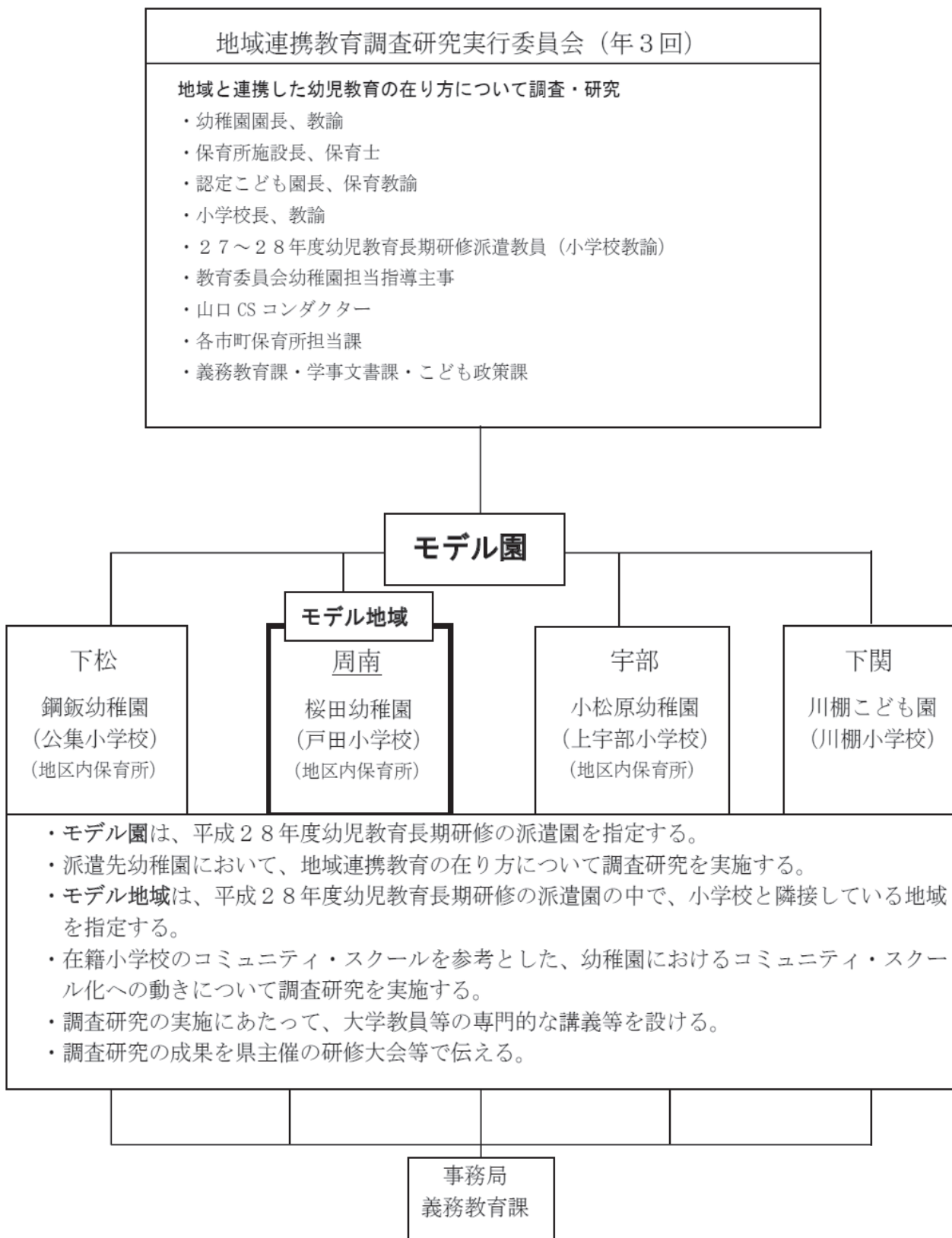
④ 研究のまとめ

- ・本調査研究の実践や「幼児教育長期研修」の報告等を、「研究のまとめ」として県内の幼児教育施設や小学校に配付するとともに、山口県教育委員会義務教育課 Web ページへ掲載し、情報提供を通して、研究成果の普及を図る。

<事業計画>

時 期	内 容
7 月	地域連携教育調査研究実行委員会 ① ・研究推進体制・計画について、協議・検討 ・地域連携教育に関する調査研究
8 月～9 月	先進園視察による調査・研究 幼児教育長期研修派遣教員による地域連携教育研修会 ・効果的な地域連携の在り方について ・在籍校におけるコミュニティ・スクールの活動について
1 0 月	地域連携教育調査研究実行委員会 ② ・地域連携教育の在り方について ・先進園の取組について報告
1 1 月	「つながる子どもの育ち大会」（1 1 月 1 日） ・厚狭地域にて、県教委，県主催の全県の幼保・小教職員を対象とした研究大会を開催し，調査研究事項の検証。私立幼稚園協会・保育協会と連携した開催により，成果普及を図る。
1 2 月	「やまぐちコミュニティ・スクール推進フェスティバル」（1 2 月 1 7 日） ・周南地域にて開催。県主催のフェスティバル。「やまぐち型地域連携教育」の取組の成果等を県内外に発信する。
1 2 月～1 月	幼児教育長期研修派遣教員による地域連携教育の推進 ・派遣園において地域と連携した実践を推進 ・派遣園のコミュニティ・スクール化について検証
2 月	地域連携教育調査研究実行委員会 ③ ・研究成果の取りまとめ ・Web ページ掲載による情報提供

<組織図及び体制図>



(2) 「やまぐち型地域連携教育」について

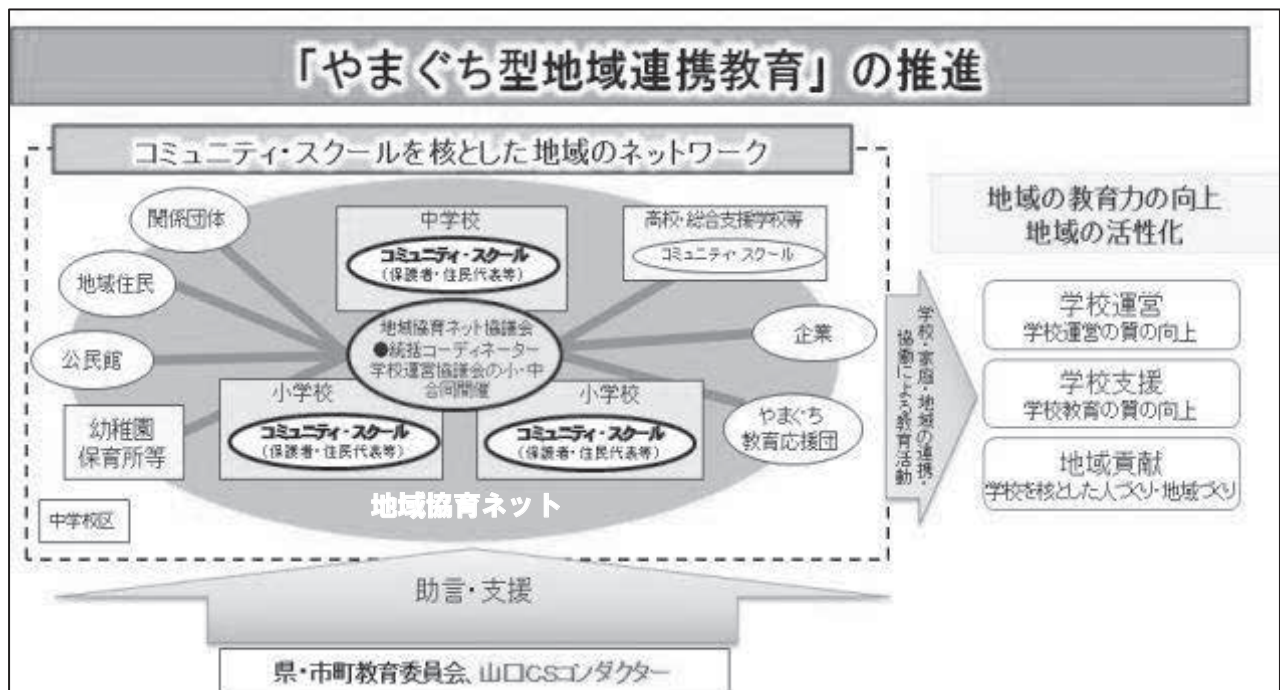
山口県では、平成27年3月に「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」を策定し、その中で「社会総がかりによる『地域教育力日本一』の取組の推進」を掲げた。そのチャレンジプランを踏まえ、県教育委員会では、山口県教育振興基本計画を一部改定し、地域ぐるみの教育推進プロジェクト」を掲げ、平成27年度から「やまぐち型地域連携教育」を推進している。

「やまぐち型地域連携教育」の推進

- コミュニティ・スクールが核となり、「地域協育ネット」の仕組みを生かして、各中学校区で地域のネットワークを形成し、学校・家庭・地域が連携・協働することにより、社会総がかりで子供たちの学びや育ちを見守り支援する教育を推進。
- コミュニティ・スクールと「地域協育ネット」の取組を一体的に推進し、充実させることにより、地域の教育力の向上・地域の活性化を図り、地域教育力日本一の実現をめざす。

「地域協育ネット」

幼児期から中学校卒業程度までの子供たちの15年間の育ちや学びを地域ぐるみで見守り、支援するためのおおむね中学校区を一まとまりとした仕組み



県内市町立小・中学校のコミュニティ・スクール指定校の割合が100%（H28.4.1）

幕末維新时期に寺小屋の数が全国2位など、子供たちの教育に熱心な風土や県民性が今も受け継がれ、地域の方々が学校教育を支援しようという気持ちをもっていただけることが、背景となっている。

- *コミュニティ・スクール：法律に規定されている「学校運営」の機能に加え、山口県では、「学校支援」「地域貢献」の機能を持ち、全ての学校の教育水準と学校運営の質の向上とともに、学校を核とした地域づくりを推進する仕組み。
- *統括コーディネーター：中学校区に配置され、学校間の連携や地域の支援者との連絡調整、活動の総合調整などを行う。

1 幼稚園における「やまぐち型地域連携教育」の推進

<実践報告>

- 地域を題材とした遊びの実践報告
- モデル地域等における実践報告
 - ・学校運営
 - ・学校支援
 - ・地域貢献
- 先進地等視察から学ぶ～視察等訪問報告～



【実践報告について】

(1) 地域を題材とした遊びの実践報告 p. 7～p. 14

保育所施設長や幼稚園長，小学校長，行政担当者等を委員とする地域連携教育調査研究実行委員会を設置し，地域と連携した幼児教育の在り方について協議・検討した。

その成果を生かした「地域を題材とした遊び」の実践を，山口県内の幼稚園，保育所，認定こども園及び小学校の教員，保育士等が一堂に会し，幼児期における教育及び幼保・小接続に係る共通課題について研究協議を行う「つながる子どもの育ち大会」において公開した。

取組の様子等について，大会要項より抜粋する。

(2) モデル地域等における実践報告 p. 15～p. 35

平成28年度幼児教育長期研修派遣教員の在籍地域の中で，小学校と派遣幼稚園が隣接している地域をモデル地域として指定し，地域と連携した教育の在り方についての研究を進めた。

モデル地域の小学校(周南市立戸田小学校)と幼稚園(周南市立桜田幼稚園)においては，幼小連携運営協議会を発足し，活動の進め方や体験活動等についての熟議を行った。

その成果として今年度実践した取組について紹介する。併せて，昨年度，幼児教育長期研修を経験した教員による，小学校での地域と連携した授業の実践例を紹介する。

なお，実践については，「やまぐち型地域連携教育」における「やまぐちコミュニティ・スクール」の3つの機能(「学校運営」「学校支援」「地域貢献」)に基づき分類した。

(3) 先進地等視察から学ぶ～視察等訪問報告～ p. 36

地域との連携や地域との連携を計画的に位置づけた接続期のカリキュラム作成につながる情報を収集するため，先進的な取組を行っている市や幼稚園を訪問すると共に，研究機関等の研修会へ参加した。

その成果を，報告書より抜粋する。

山陽小野田市立埴生幼稚園，桃太郎園，あおい保育園

1 地域内幼保の共通研究テーマ

地域で共に育ち合う子供たちのつながる喜びとふくらむ連携をめざして

2 研究を推進するにあたって

(1) 研究テーマ設定の理由

3園は山陽小野田市の西側に位置しており，南は波静かな瀬戸内海に面し，北はところどころ田園も見られる丘陵地帯である。近くには日本で2番目に古い山陽小野田市青年の家の天文館や糸根公園，西日本最大級のシステム農場「花の海」，国道190号線に沿って5分程のところに森本海岸など，さまざまな自然環境に恵まれている。また，3園が取り囲むように小学校も隣接しており，平成18年度に文部科学省から委託を受けた就学前教育と小学校の連携に関する総合的調査研究「育ちと学びをつなぐ幼保・小連携の在り方」を機に，幼保・小連絡会と交流会を通して子供を育てる方向性を共有化し，健全な発育発達を支援していく方策の考察と協働による実践を10年間積み重ねている。

3園の交流活動のきっかけは一昨年4月，近隣のれんげ畑で「一緒に遊ぼう」と埴生幼稚園の教員が保育所の子供たちに声をかけたことから始まる。初めは交流が見られなかったが，時間の経過とともに，れんげを摘んで，花束を作って見せ合ったり，「れんげのおふとんだよ」と言いながら寝ころがったりして，無邪気に遊びふれ合う子供たちの姿が見られ始める。そして「これからも一緒に…」と保育士と教諭が意気投合し，お互いが心から「一緒に遊びたい」と思い楽しめる活動，自園の活動を大切に「できる時 できることを できるほど」という共通理解のもと，無理なく活動することを心に留め，お互いの園庭で遊んだり園行事に誘い合ったり，地域のイベントへの参加や地域施設への遠足を一緒に行うなど交流し始める。

お互いの園を行き来し，自園にない遊具の遊び方を教え合い一緒に遊んだり，逆上がりや側転など自分が得意なことを見せたり，「すごい！どうするん？おしえて！」「いいよ。こうやって…」などの場面から，友達としてのつながりを感じ始める。その後，自園へ戻り，教えた子は運動遊びへの意欲が増し，教えてもらった子は満足いくまでやり続けるなど，お互いの刺激になっていることもうかがえる。また，「一緒に入学する他園の子と友達になれるだろうか」と大きな不安を抱く保護者が，就学時健診で他園の子と仲良くしているわが子の姿を見て安心したという声が聞かれ，保護者の喜びにもつながっていると実感する。

3年目を迎えたこの交流活動について振り返り，地域で共に育ち合う埴生っ子がつながる喜びを実感し，無理なくお互いに必要性を感じられる連携とはどういうものか，つながりを絶やすことなく継続していくためにはどうしたらよいかなど再度共に考え，3園それぞれの良さを生かす活動，季節や地域性が感じられる活動，友達とのふれ合いが深まる活動を取り入れ，有意義な取組にしようと心新たに歩み始める。そして，保育士と教諭は，子供たちの自然な姿，主体となり活動している姿を大切にすることを共通理解し，取組を深めていくよう心がけ，子供たちはもちろんのこと，保育士・教諭，保護者のつながる喜びとふくらむ連携を目指していくことを研究テーマに掲げ，実践を重ねていくこととした。

(2) 研究の方法

- ・就学前までのねらい，目指す子供像，スローガン，交流活動で期待されることを掲げ，保育士と教諭が共通理解と意思統一を図り，子供たちの活動を支援していく。
- ・「目で見て耳で聞いて考えて行動する」力を育てるために，運動，リトミック・言葉での表現活動を取り入れる。
- ・交流活動後には会議をもち，振り返りと考察，次への課題を話し合う。

つながる子どもの育ち大会 大会主題

『 つなげよう 子どもの学び・豊かな心・たくましい育ち 』
～ つながる喜びがふくらむ幼保・小連携の充実に向けて ～

○地域内幼保の共通研究テーマ

：地域で共に育ち合う子供たちのつながる喜びとふくらむ連携をめざして

就学前までのねらい

「 他園児との交流を深め、小学校生活に期待をもつ 」

- * 全員の顔と名前を知っている。
- * 園外で会った時にあいさつができる。
- * 各園の子ども達同士が自主的に遊ぶことができる。

スローガン

「埴生っ子 だいすき」

みんなともだち」

目指す子ども像

自分の気持ちを言葉で
伝えることができる子供
人の話を聞くことができる
子供
人に手を差し伸べることが
できる優しい子供
自分の暮らすまちが好き
な子供

はじめよう

- * 「運動大好き！やまぐちっ子体操」
- * お話タイム
- * リトミック
- みんなで歌おう「ともだちマーチ」

ふれ合い遊び，運動遊び，ゲーム遊び
園行事を生かした活動，季節を取り入れた活動

【交流活動で期待されること】

- より多くの友達とかかわる中で，友達とのかかわりが広がったり深まったりする。
- 地域の自然環境や特色を生かした活動をする中で，いろいろな人とふれ合う機会が増える。
- いろいろな刺激を受け，新しい遊びへの興味や関心の幅が広がる。
- 複数の保育士や教諭がかかわることで，今まで気が付かなかった子どもの姿や成長を知り，**幼児理解が深まる。**（保育士・教諭の立場から）

平成28年度 交流・連携活動計画

月	保育士と教諭の交流・連携	子供たちの交流・連携	小学校との交流・連携
4月	3園会議 ・就学前までのねらい、 目指す子供像、交流活動で期待されることについて ・活動内容と計画の作成	ゴーヤの苗植え（花の海） れんげ畑で遊ぼう（地域）	
5月		お店屋さんごっこ（桃太郎園） 仲良し遊び（埴生幼稚園） 小学校で遊ぼう（埴生小学校）	小学校春季大運動会 （埴生小学校）
6月	3園会議 ・交流活動の振り返りと 考察、今後の打合せ	ウォーターアート玄太君ショー （埴生幼稚園） 仲良し遊び（あおい保育園） 磯遊び（津布田森本海岸）	人権教育後援会 幼保・小連絡会
7月	3園会議 ・交流活動の振り返りと 考察、今後の打合せ	おまつりごっこ（3園） 笹飾り作り（埴生小学校体育館） ゴーヤ収穫祭と試食会（花の海） 埴生祇園ふるさとまつり （糸根神社）	2年生との合同保育 「体を使って楽しく 遊ぼう」 （埴生小学校）
8月		夏遊び会（埴生幼稚園）	幼保・小連絡会
9月	3園会議 ・交流活動の打合せ	バイオリンコンサート （あおい保育園）	
10月	3園会議 ・交流活動の振り返りと 考察、今後の打合せ ・リンクリンクカリキュラム	埴生マップ作り （埴生小学校体育館） 園内ミニコンサート（埴生幼稚園） 希望の森植樹祭 （サッカー交流公園） ハロウィンフェスタ（花の海）	合同避難訓練 コンサート参加 （1年生）
11月	3園会議 ・交流活動の振り返りと 考察、今後の打合せ	つながる子どもの育ち大会・・・埴生マップ作り 楽しい遠足（山陽オートレース場） 運動遊び出前講座（埴生幼稚園） 埴生マップ作り （埴生幼稚園）	1年生との里帰り 交流会（3園） 持久走大会の応援
12月		埴生ふれあい文化祭（埴生公民館）	
1月	3園会議 ・交流活動の振り返りと 考察、今後の打合せ ・リンクリンクカリキュラム	お正月遊び（あおい保育園） メルヘンサークル観劇会 （埴生幼稚園）	
2月	3園会議 ・リンクリンクカリキュラム	仲良し遊び（桃太郎園）	5年生とのふれ合い 交流会（埴生小学校）
3月	3園会議 ・今年度の振り返り ・次年度への引継ぎ	世界に1つしかないしおり作り （花の海） 仲良し遊び（埴生幼稚園）	幼保・小連絡会

※ 花の海: 地域内にある施設。システム農場。

リンクリンクカリキュラム:山陽小野田市で進めている「接続期カリキュラム」の総称

<交流活動事例>

～ れんげ畑で遊ぼう～

ねらい：春の自然の中で一緒に遊ぼう

- ・進級後の初交流だったので、最初是他園とのふれ合いの様子は見られず、自園の友達との遊びがほとんどだったが、虫を探し捕まえることが得意なあおい保育園のT君の姿が目に入ると、他園の子供たちもT君の周りに次々と集まり始め「みせて」「すごいね」などと声をかける場面が見られた。



～ お店屋さんごっこ～

ねらい：一緒にお店やさんごっこを楽しもう

- ・売り手と買い手がジャンケンをし、買い手が勝った時、好きな品物が買えるというルールで行った。ジャンケンが子供達のふれ合いやかかわりを広げていることが子供達の様子からうかがえた。



～ 仲良し遊び（5月）～

ねらい：友達と好きな遊びを楽しもう

- ・「やまぐちっ子体操」を覚えた子供たちの様子から物足りなさやうかがえたので、ストレッチや運動をプラスするなどの工夫が必要だと感じた。
- ・自園では人前で発表できる子供たちも、環境が違くと緊張や戸惑いを感じる場合があるので、お話タイムは自分の名前と好きな色など簡単なことから始め、順を追って発表する内容を増やしていく。
- ・他園の友達の遊びに興味・関心をもった時は、自分がかかわろうとする子が増えてきた。



～ 磯遊び～

ねらい：地域の身近な自然の中で友達とふれ合いながら、喜びを共感し合う

- ・同じ場所で遊びながらも、同園の友達とのかかわりがほとんどで、他園の子と一緒に遊ぶ姿が見られなかったこれまでとは違い、磯遊びではカニやカワエビ、ヤドカリなどを上手に獲る子に惹きつけられ、一緒に行動する姿、獲った生き物を見せ合い「すご〜い」とほめ合ったり喜び合ったりする姿があちこちで見られ、少しずつではあるが他園の友達とのかかわりの広がりや深まりがうかがえた。
- ・れんげ畑での遊びと磯遊びに同伴された外部の方から「れんげ畑では自園の友達との遊びがほとんどだったが、磯遊びでは他園の子供同士のかかわりが見られ、交流が深まっていると感じた」という言葉をいただき、子供たちのかかわりが広がっている表れだと実感した。かかわりの広がり深まりを気持ちのつながりへと導いていきたい。



～ 仲良し遊び（6月）～

ねらい：友達と一緒に体を動かして遊ぼう

- ・「やまぐちっ子体操」に「アブラハムの子」や2人組での船こぎを取り入れると、いつもより早く子供たちの気持ちがほぐれていることがうかがえた。
- ・自己紹介タイムで氏名と自身の誕生日を発表した後、歌遊び「誕生日なかま」を取り入れたことでより盛り上がり、子供たちの笑顔が増してきた。
- ・リトミックでは歩く・走る・ゆっくり歩くという3つのリズムと、座る・飛ぶという2つの音をよく聴き動くという投げかけに、音をよく聴こうとする姿と「すごいね」というほめ言葉に「できるよ」という喜びと自信をもって動いている姿が見られた。
- ・“はじめよう”の後、戸外遊びを予定していたが、突然の雨で戸外へ出られず、即座に経験豊富な保育士と教諭がふれ合い遊びや身近な物を使ってのゲーム遊びを行い楽しく過ごした。ベテラン教員の姿から遊びのバリエーションを豊かにしておく必要性を学ぶことができた。
- ・保育士と教諭も子供たちと本気になって遊び楽しむことで、スローガンの「みんな」という言葉が生きるということを強く感じた。
- ・ふれ合い遊びを担当する教諭の「子供たちが主体的に・子供の気付きを待つ」という思いが、他の保育士や教諭と共有されておらず、子供たちに教えたり先走ったりする場面が見られたので、共通理解や意思の疎通を心がけ交流活動に臨むよう再確認した。



～ 七夕飾り作り ～

ねらい：みんなでひとつの物を作る喜びと達成感を味わう

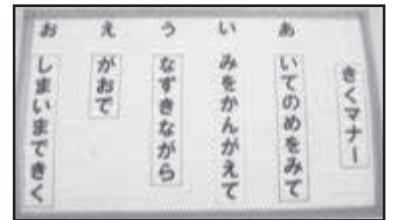
- ・「自分の保育園や幼稚園ではない友達と2人組」という投げかけに、戸惑うことなく素早く動く子供たちの姿に、交流の積み重ねが友達としての受け入れにつながっていることがうかがえた。
- ・ペアの友達と考えや思いをどのような言葉で伝え合うか見守る中、A児が輪つなぎののりづけの位置を間違えると、B児がさり気なく正しい位置に貼りかえ、それを見たA児が納得し真似るといった場面を見るなど、交流が個の成長を促していると感じた。
- ・七夕飾り作りでは一緒に1つのものを作っていく姿と別々に作ったものをつなげる姿、のりをつけ手渡す子とそれをつなげていく子というように分担している姿、つなげた枚数を一緒に数える姿、合体したものがシートからはみ出たことを喜び合う姿など、子供たちのいろいろなかかわりの場面が見られ、その場面に対し共感の言葉をかけながら交流の楽しさを伝えた。
- ・少しずつではあるが、他園の友達の名前を呼び合う姿も見られるようになった。
- ・保育者の見守りや言葉かけ、働きかけの姿勢とタイミングが異なり、交流活動を取り組む前に共通理解しておく必要性を感じた。併せて、各園の子供たちの個々の様子を話し合い、気になる子へのかかわり方などを話し合っておくべきであった。
- ・終了時間がきてもやめない子がいたが、時間の意識を持たせるために、「もう終わり」ということをはっきりと伝えることが大切である。



～ 夏遊び大会 ～

ねらい：友達と一緒に夏の遊びを思い切り楽しもう

- ・遊びの前に伝えた約束を守りながら夏の遊びを楽しんでいた子供たちの姿から、目指す子供像の「人の話を聞くことができる子供」へ向かっていることがうかがえた。発達に応じた「目で見て耳で聞いて考え行動する」活動を取り入れ、就学に向けて「きくマナー」の定着に導いていくことを大切にする。
- ・色水遊びで思い思いのジュースを作り乾杯し、「○色と△色を混ぜると□色になる」などと他園の友達と伝え合っている姿から、かかわりの深まりとともに、新しいことを発見した驚きと喜びによりさらに興味・関心の幅が広がっていることがうかがえた。



3 公開保育・授業指導案

主 題「みんなで埴生マップを作ろう」

(主題設定の理由)「埴生マップ作り」を通して、自分が暮らすまちに興味・関心と親しみをもち、目指す子供像「自分の暮らすまちが好きな子供」につなげる。

交流活動案 ①

日 時	平成28年10月17日(月) 10:00～11:00		場 所	埴生小学校体育館
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園と幼稚園の周りにあるものを一緒に考え話し合う。 ・道路や海など長いもの、広く大きなものをみんなで作る。 			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを言葉で伝えたり、友達の言葉に耳を傾ける。 ・友達と一緒に作りながら、かかわりを広げたり深めたりする。 ・みんなでひとつの物を作る喜びを味わい、次の活動に期待をもつ。 			
時 間	予想される子供の姿	保育士・教諭の援助(・)と環境構成(★)		
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ○「運動大好き!やまぐちっ子体操」 ○リトミック ○お話タイム <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ○みんなで話合い <ul style="list-style-type: none"> ・「埴生のまちには何があるかな?」 ○埴生マップ作り <ul style="list-style-type: none"> ・道路, 海, 山など 	<ul style="list-style-type: none"> ★子供たちは自由隊形で ・他園の友達とかかわりがもてるよう見守る。 ・気になる子にはさり気なく必要な支援を行う。 ・思うように言葉が出ない時は、そばに寄り添い見守り, 言葉を添えたりするなど配慮する。 ・個々の思いや考えを大切に受け止める。 ・友達の話に耳を傾けることを伝える。 ★必要な材料や用具をわかりやすい位置に置く。 		
10:15	<ul style="list-style-type: none"> ○片付け ○次回の制作コーナー(3つ)について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの様子を見守りながら, 言葉かけや援助はタイミングを考え行う。 ★ピアノの周りに集まる。 		
10:50	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで「ともだちマーチ」を歌う 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで作った喜びを共感しながら, 次への期待感をもたせる。 		

交流活動案 ② (本時)

日時	平成28年 11月1日 (火) 9:30~10:30		場所	埴生小学校体育館
活動内容	自園で作った保育園や幼稚園を友達に見せながら、頑張ったことなどを言葉で伝える。友達と思いや考えを伝え合いながら、自分たちのまちを作る。			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを言葉で伝え、友達の言葉に耳を傾ける。 ・友達と一緒に作りながら、かかわりを広げたり深めたりする。 ・みんなでひとつの物を作る喜びを味わい、次の活動に期待をもつ。 			
時間	予想される子供の姿	保育士・教諭の援助(・)と環境構成(★)		
9:30	<ul style="list-style-type: none"> ○「運動大好き!やまぐちっ子体操」 ○リトミック ○お話タイム <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介と制作物披露 ・頑張ったことなどを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ★子供たちは自由隊形で ・友達とかかわる楽しさに共感する。 ★制作物を持ち、園ごとに並ぶ。 ・自分のことを話す勇気を受け止める。 ・友達の話に耳を傾けることを伝える。 		
9:50	<ul style="list-style-type: none"> ○埴生マップ作り <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなコーナーで作る。 花の海, 小学校, 公園, スーパー 〔など前回の話合いで決めた場所〕 	<ul style="list-style-type: none"> ★3つのコーナーを作っておく。 ★必要な材料や用具をわかりやすい位置に置く。 ・自分の好きな制作コーナーを「選ぶ喜び」が、「作る意欲」へとつながるよう導く。 ・一人で夢中になり制作する子, 友達と一緒に制作する子など, さまざまな姿を受け止める。 ・子供たちの様子を見守りながら, 言葉かけや援助はタイミングを考えて行う。 		
10:20	<ul style="list-style-type: none"> ○片付け ○次回の交流活動と制作の続きについての話を聞く。 ○みんなで「ともだちマーチ」を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ピアノの周りに集まる。 ・みんなで作った喜びを共感しながら, 次回の交流活動を知らせ期待感をもたせる。 		

【活動の様子】



交流活動案 ③

日 時	平成28年11月11日(金) 10:00~11:00		場 所	埴生幼稚園遊戯室
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい遠足(交流活動)を思い出しながら、見たこと感じたことを制作で表現する。 ・みんなで力を合わせ、埴生マップを仕上げる。 			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを言葉で伝えたり、友達の言葉に耳を傾けたりする。 ・友達と一緒に作りながら、かかわりを広げたり深めたりする。 ・みんなでひとつの物を作る楽しさや喜び、達成感を味わい共感し合う。 			
時 間	予想される子供の姿	保育士・教諭の援助(・)と環境構成(★)		
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ○「運動大好き!やまぐちっ子体操」 ○リトミック ○お話タイム <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ★子供たちは自由隊形で ・主体的に友達とかかかわっている姿を価値づける。 ・自信をもって自己表現ができるよう配慮する。 ・自分のことを話す勇気を受け止める。 ・友達の話に耳を傾けることを伝える。 		
10:15	<ul style="list-style-type: none"> ○埴生マップ作り <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい遠足(交流活動)で見たことや感じたことを思い出しながら伝え合い、制作する。 ・仕上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ★必要な材料や用具をわかりやすい位置に置く。 ・見たこと感じたことを伝え合いながら制作している子供たちの姿を大切に受け止める。 ★全員でマップ全体を見ながら仕上げへ向けての話し合いの場をもつ。 ・子供たちの様子を見守りながら、言葉かけや援助はタイミングを考え行う。 ・みんなで作った満足感や達成感を共感し合う。 ・子供たちの頑張りを認め、ほめ言葉をかける。 ・地域の文化祭(埴生ふれあい文化祭)に展示することを知らせ、喜びや期待感をもたせる。 		
10:50	<ul style="list-style-type: none"> ○片付け ○みんなで「ともだちマーチ」を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ピアノの周りに集まる。 ・次回の交流活動への期待感をもたせる。 		

日頃の交流の様子が地元の新聞「宇部日報」に掲載されています



【平成27年2月18日(木)】



【平成28年4月12日(火)】



【平成28年6月16日(木)】

周南市立戸田小学校・周南市立桜田幼稚園

【学校運営に係る取組】

幼小連携運営協議会

○活動の目的

これまでの幼稚園・小学校の行事・運営に関する取組を見直し、小学校・幼稚園の運営協議会を中心に「つながる子供の育ち」を充実させる。

○参加者（対象）

桜田幼稚園長・主任・幼児教育長期研修生
戸田小学校長・教頭・教務
幼小連携協議会委員…3名
周南市教育委員会指導主事
山口^{コミスク}CSコンダクター



○活動の内容（日時・場所・内容等）

「第1回 幼小連携運営協議会」

日時：9月29日（木）16：00～

場所：戸田小学校 校長室

内容：（1）本年度の連携の経過

（2）幼稚園、小学校、地域の連携に関する今後の活動内容

- ①地域を含めた連携による体験活動
- ②幼稚園・小学校の「つながり」を考えた活動
- ③共通取組事項

（3）その他

発足の経緯：桜田幼稚園が「幼稚園における『やまぐち型地域連携教育』」の調査研究モデル地に指定されたことをきっかけとして、隣接する戸田小学校と話し合い、本会を発足した。幼小連携協議会委員の3名のうち2名は幼・小コミュニティ・スクール評議員であり、1名は幼・小PTA執行部経験者であることから、選出された。

発足のねらい：地域の力を借りながら幼小連携を推進することで、幼小のつながりをより深める。また、それをコミュニティ・スクールの活性化につなげ、地域が子どもを育てる意識を高める。

○協議したこと

（1）本年度の連携

- 5年生との交流…年間を通して
- 夏休みの幼稚園見学…幼稚園夏季休業中の自由登園日を利用して
- 2年生との交流…2学期「おもちゃまつり」

●1年生との交流…3学期「昔の遊び体験」

(2) 幼稚園、小学校、地域の連携に関する今後の活動内容

①地域を含めた連携による体験活動

(◎:実施, ○:実施可能, △:検討が必要, ×:できない)

◎4月(5月)「アユの放流イベント」

…小学生がアユの稚魚をバケツに入れ、それを園児が川に放流する。

○「ゲーム集会」

…児童集会のため、どのような形になるか分からないが、園児が参加できる内容であれば参加は可能である。

△「避難訓練」

…たくさんの園児・児童を教員だけで避難させるのは、大変。地域の方にも訓練に参加していただくと、より充実したものになる。

△「そうめん流し」「ぽんぽら飯」

△さつまいも栽培・収穫

△戸田小フェスティバル

△こいのぼり・七夕

△野菜づくり・かかし作り

×防災訓練

×消防体験

×もちつき

②幼稚園・小学校の「つながり」を考えた活動

◎幼稚園が小学校の施設を利用

- ・小学校の図書室を利用して、本を借りる。
- ・小学校の家庭科室を利用して、料理教室をする。
- ・幼稚園が参観日の際の駐車場として、戸田小運動場を利用する。

○園児の学校見学・給食体験・授業体験

- ・小学校の授業の様子を見てまわる。授業を体験する(算数:お買い物ごっこなど)。
- ・小学校で給食を食べてみる。
- ・小学校の行事(ゲーム集会など)に参加する。

○幼小連携研修

- ・校内研修における研究授業、園内研修における公開保育を見合う。(日程の連絡・案内)

③共通取組事項

○あいさつ運動、早寝・早起き・朝ご飯…日常的に声をかける。

◎学校だより、園だよりを交換し合う。

(3) その他

・小1プロブレムの解消に関する研修

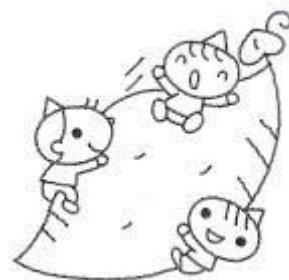
・親切すぎる部分、配慮が必要な部分の研修…研修への相互参加。

※2月:「第2回幼小連携運営協議会」を実施し、来年度の活動について協議する。

芋の苗植え・芋掘り

○活動の目的

寿会（地域高齢者のボランティアグループ）の方とふれあいながら、芋の苗を植えたり、芋掘りをしたりすることによって、地域の方に親しみをもつとともに、野菜の苗を植え、育て、収穫し、食べる喜びを体験する。



○参加者（対象）

〈芋の苗植え〉

桜田幼稚園児…年長組（5歳児）14名・年中組（4歳児）21名

寿会の方…8名

〈芋掘り〉

桜田幼稚園児…年長組（5歳児）14名・年中組（4歳児）21名・年少組（3歳児）17名

寿会の方…7名

○活動の内容（日時・場所・内容・特徴等）

特徴：一昨年までは、戸田小学校低学年児童と一緒に活動していたが、桜田・夜市・湯野の3園が合併し、園児の人数が増えたため、昨年からは、同じ日に時間を分けて実施している。

〈芋の苗植え〉

日時：6月1日（水） 10:00～10:30

場所：桜田幼稚園裏の畑

内容：寿会（地域高齢者のボランティアグループ）の方の指導のもと、芋の苗を植える。

寿会の方が畑に穴をあけてくださり、園児がその穴に苗を入れて、土をかける。



〈芋掘り〉

日時：10月25日（火） 9:40～10:00

場所：桜田幼稚園裏の畑

内容：寿会（地域高齢者のボランティアグループ）の方と一緒に、芋を収穫する。



○活動の様子

芋の苗を植え、水をあげる際に「大きくなってね。」「おいしいお芋になってね。」という声をかけていた。

芋畑が園舎のすぐ裏にあるので、年中組の保育室から畑の芋の様子を観察することができる。また、寿会の方々が畑に行き、芋の世話をしてくださっている姿も見るができる。

芋掘りまでに、何度か芋畑に行き、葉やつるの様子を見たり、触ったりした。

芋掘り当日は、寿会の方々が、つるを切ってくださっているのので、芋掘りがしやすい状態になっている。子供たちは、一生懸命掘り、出てきた芋に歓声をあげていた。

取れた芋は袋に入れ、各家庭に持ち帰った。



寿会の方々は、芋の苗植えの際も、芋掘りの際も、子供たちの様子を見ながら、優しく声をかけ手伝ってくださるので、子供たちは、安心して活動していた。



教員としては、芋掘りでつるを引っ張る経験をさせたいので、来年度以降、少しつるを残してくださるよう、寿会の会長さんをお願いしてみたい。



おもちゃまつり

○活動の目的

〈幼稚園〉

- ・小学生や地域の方と親しみ，かかわりを深め，愛情や信頼感をもつ。
- ・身近な環境に自分からかかわり，発見を楽しんだり，考えたりし，それを生活に取り入れようとする。
- ・おもちゃまつりを楽しみ，自分の力で行動することの充実感を味わう。

〈小学校〉

- ・自分と身近な人々に関心をもち，地域のよさに気づき，愛着をもつ。
- ・園児や地域の方とかかわりを深めることを通して，自分のよさや可能性に気づき，意欲と自信をもって生活することができる。
- ・身近なものを使っておもちゃを工夫して作り，その遊び方を分かりやすく伝えることができる。

○参加者（対象）

周南市立桜田幼稚園…年長組（5歳児） 14名

周南市立戸田小学校…第2学年児童 23名

地域ボランティア… 4名



○活動の内容（日時・場所・内容・特徴等）

9/29(木)15:15～「交流活動 打ち合わせ」【戸田小学校 校長室】

…戸田小教頭，教務，第2学年担任，桜田幼稚園年長組担任，幼児教育長期研修生の5名で，活動内容と日程について話し合った。

11/4(金)10:30～11:30「顔合わせ」【桜田幼稚園年長組遊戯室・園庭】

…じゃんけんゲームやフープゲームを通して仲良くなった後，園庭で自由に遊んだ。



11/10(木)10:35~11:20「おもちゃまつり プレ発表会」【戸田小体育館】

…2年生が作ったおもちゃの説明を聞いた後，そのおもちゃで遊ばせてもらった。



11/22(火)10:35~12:45「おもちゃまつり・昼食交流会」

【戸田小体育館・5年1組教室・2年1組教室】

…自分たちが作ったおもちゃで遊び，昼食（給食・弁当）を一緒に食べた。

その後，ころがしドッジボールをして遊んだ。



○活動の成果等

2年生のお店，年長組のお店，地域の方のお店とたくさんの手作りおもちゃやさんが出店され，子供たちは，ふれあいながら楽しく遊んだ。

地域の方が「あっちの方が空いているから，先に行ってみたら。」と声をかけてくださったり，「次は，あっちに行ってみようか。」と手を引いてくださったりと，優しく接してくださったので，子供たちも安心して過ごしていた。

幼稚園に帰る際に「今日，楽しかった～。」としみじみ言っていたほどだ。また，地域の方が園の横を通って帰られているのを見かけて，「さようなら。」「バイバ～イ。」と元気よく手を振っていた姿が，印象的だった。

地域の方とは，短い時間の関わりだったが，一緒に遊び，会話することで，子供たちにとって，身近な存在になっているようだった。

防火餅つき大会

○活動の目的

秋季全国火災予防運動中に幼年消防クラブ行事の一環として、消防署や地域の方と餅つきを楽しみながら、火災予防の勉強をする。



○参加者（対象）

桜田幼稚園幼年消防クラブ員…きりん 14名，うさぎ 21名，りす 17名

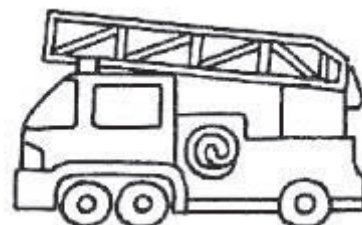
保護者…18名

園職員…9名

戸田婦人防火クラブ…5名

地域有志（消防団員等）…2名

消防職員…7名



○活動の内容（日時・場所・内容・特徴等）

日時：11月8日（火）9：30～13：00

場所：周南市立桜田幼稚園

内容：煙体験ハウス，餅つき，消防車展示，放水体験，餅の試食，記念撮影

特徴：幼年・少年消防クラブ（周南市では幼稚園4園，小学校3校）や婦人消火クラブ（周南市では4つ）がある地域は珍しく，園にとっても大切にしている行事の一つである。毎年，PTA役員が行事開催の準備や当日の手伝いをしてくださる。豚汁も作ってくださり，餅を試食する際に一緒に食べる。

○活動の成果等

餅つきだけでなく，煙ハウスや放水の体験もさせてくださり，園児にとっては，日頃の園生活では体験することのできない貴重な時間となった。

鏡餅を飾らない家庭が増えているが，杵と臼を使って餅をつくという体験ができて良かった。餅を試食する際には，参加者全員が遊戯室に集まり，園児も地域の方や消防署の方と楽しく会話しながら食べており，よいふれあいの場となった。



① 開会



② 煙体験



③ 餅つき



④ 消防車両展示



⑤ 放水体験



⑥ 試食



親子陶芸教室

○活動の目的

卒園を前に親子で作品を作ることを通して、共に楽しみ、共感し合い、家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちを育てる。また、地域の方に指導していただくことで、地域の方に親しみをもち、人とかかわることの楽しさを味わう。

○参加者（対象）

桜田幼稚園児 きりん（年長）組 14名とその保護者
陶芸講師 2名（戸田在住の陶芸を趣味でされているご夫婦）



○活動の内容（日時・場所・内容・特徴等）

日時：1月13日（金） 9：30～11：00

場所：桜田幼稚園 きりん組保育室

内容：戸田で陶芸をされているご夫婦に、親子で陶芸を習う。

特徴：この日に1・2点作品を制作し、後日、焼いて仕上げを持ってきてくださったものを「卒園記念品」として、各家庭へ持ち帰る。



○活動の成果等

戸田地区に陶芸の名人さんがいることを知る機会となり、自分たちの住む地域を誇りに思う気持ちを育むきっかけとなった。また、親子で作品を作ることを通して、家族の絆を深めることにつながった。持ち帰った作品を見るたびに、作った時のことを思い出し、懐かしく思うことだろう。

ニコニコクラブ（交通安全教室）

○活動の目的

周南市の幼児交通安全クラブ（周南市交通安全対策推進協議会）である「ニコニコクラブ」の出前講座を活用することにより、交通安全に気を付けて生活しよう、交通ルールを守って生活しようという意識を育てる。

○参加者（対象）

桜田幼稚園児 年長組 14名， 年中組 22名
ニコニコクラブの指導員 2名



○活動の内容（日時・場所・内容・特徴等）

- 5/17（火）：①横断歩道の渡り方【遊戯室】
- 6/14（火）：②信号機のある横断歩道の渡り方【遊戯室】
- 7/12（火）：③横断歩道のない道路の渡り方（塀を使って）【遊戯室】
- 10/4（火）：④横断歩道のない道路の渡り方（自動車を使って）【園庭】
- 11/15（火）：⑤道路の曲がり角付近の渡り方（自動車を使って）【園庭】
- 1/17（火）：⑥傘をさして横断歩道を渡る渡り方・修了式【遊戯室】



○活動の成果等

1年間を通して、学習する交通ルールの内容をレベルアップしてくださるので、段階的に学ぶことができる。道具も工夫してくださっているので、実践に近い状態で学ぶことができる。交通安全教室後、楽しいゲームをしてくださるので、毎回、子供たちも楽しみにしている。今年度最後の日、指導員の方が帰られる際に「さようなら～」と元気よく手を振っている姿が印象的であった。

昔の遊び交流

○活動の目的

〈幼稚園〉

高齢者をはじめ、地域の中で自分の生活に関係の深い様々な人と触れ合い、自分の気持ちや意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、人々に親しみをもち、人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わう。

〈小学校〉

昔の遊びを通して、地域の方々との交流を図るとともに、それぞれの遊びの方法を習い、日本古来の遊びに慣れ親しむ。また、幼稚園児との交流において一緒に楽しむことができるようになるとともに、年長者としての気持ちをもち、今後のよりよい関係づくりに生かす。

○参加者（対象）

周南市立桜田幼稚園 きりん組（5歳児） 14名

周南市立戸田小学校 第1学年児童 27名

地域ボランティア 8名



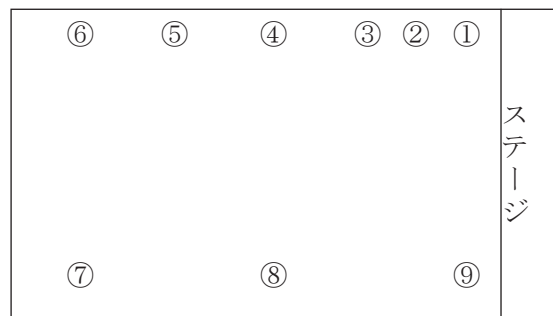
○活動の内容（日時・場所・内容・特徴等）

日時：平成29年1月20日（金） 9:30～10:15

場所：戸田小学校体育館

内容：桜田幼稚園年長組と戸田小学校1年生と一緒に、地域の方に昔の遊びを習う。各コーナーに、地域の方についていただく。

- | | | |
|----------|--------|-------|
| ① お手玉 |) テーブル | → 配置図 |
| ② おはじき | | |
| ③ あやとり | | |
| ④ だるま落とし | | |
| ⑤ こま | | |
| ⑥ 竹とんぼ | | |
| ⑦ ゴムとび | | |
| ⑧ メンコ | | |
| ⑨ けん玉 | | |



特徴：戸田小1年生との初めての出会いであることから、ペアは組まず、自分のしたい遊びを互いに存分に楽しむことで、地域の方を含む自然な触れ合いの場にする。

○活動の様子等

お手玉・おはじき・あやとり



だるま落とし



だるま落としは、予定になかったものだが、地域の方が持って来てくださった。

こま



竹とんぼ



ゴムとび



メンコ



けん玉



あやとり



遊びの道具があり、遊びの場が設定されていることで、子供たちは楽しみながら、自然に地域の方とふれあっていた。また、戸田小の一年生とも一緒に遊んでいる姿が見られた。



会の最後に、年長組・一年生から数名挙手をして、みんなの前で感想を発表した。話す態度、聞く態度ともに素晴らしかった。共に育っている様子がうかがえた。

アユの放流

○活動の目的

戸田・夜市・湯野の西部3地区を流れる夜市川へ園児がアユを放流することによって、地域への親しみをもつとともに、地域の自然とのふれあいを楽しむ。

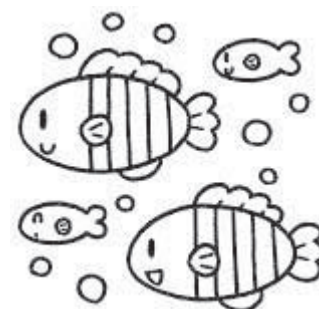
○参加者（対象）

桜田幼稚園児…年長組（5歳児）14名・年中組（4歳児）21名

周南ツーリズム協議会

戸田地区コミュニティ推進協議会の会長・副会長

ソレーネ周南駅長



○活動の内容（日時・場所・内容・特徴等）

日時：5月2日（月） 9：30～10：30

場所：道の駅ソレーネ周南親水護岸（夜市川）

内容：桜田幼稚園の園児が、夜市川へ鮎の稚魚を放流する。

特徴：周南ツーリズム協議会、戸田地区コミュニティ推進協議会主催のイベントである。もとは、湯野幼稚園でこのイベントを実施していた。桜田・夜市・湯野の3園合併後、戸田地区コミュニティ推進協議会会長の声かけにより、毎年実施している。（今年度2回目）



○活動の成果等

年中組にとっては、このイベントが、初めてのお散歩（園外保育）となる。年度始めの早い時期に実施されることで、早くから地域（園のまわりの様子）を知り、親しむことができる。またソレーネまでの道のりを、年長児と年中児が手をつないで行ったことで、お互いの信頼関係を築くきっかけにもなった。さらに、このイベントがきっかけで、魚に興味をもった園児もいた。地域の方が、アユは川がきれいではないと育てないという話をしてくださったので、ごみを捨ててはいけないという意識づけにもなった。

さくらんぼクラブの取組

○活動の目的

未就園児の親子登園を通じて、未就園児と保護者との温かなつながりをより深め、幼稚園入園後の生活をより豊かなものにするとともに、保護者同士の交流を図る。

○参加者（対象）

地域内（戸田・夜市・湯野）未就園児とその保護者 15組程度

○活動の内容（日時・場所・内容・特徴等）

5/31(火)14:30～:「さくらんぼクラブについての話し合い」【さくらんぼの部屋】

6/21(火) 9:30～11:00:好きな遊び【各保育室】

手形・足形【さくらんぼの部屋】→持ち帰り

7/12(火) 9:30～11:00:水遊びの予定だったが、雨天のため室内でボールプール【さくらんぼの部屋】

10/ 4(火) 9:30～11:00:年長組主催のお店屋さんごっこ遊び【年長組保育室】



12/20(火) 9:30～11:00:お買い物ごっこ【遊戯室】

2/21(火) 9:30～11:00:未定

- ・昨年度は園主催で実施したが、今年度から PTA 主催の行事となった。学級委員さんで下のお子さんがおられる方が役員となり、話し合い、進めておられる。園の行事（お買い物ごっこ）と合わせて実施することもある。
- ・参加者は、支所に貼ってあるポスターを見て、参加できる日に出席される。
- ・開催日には、周南市家庭教育支援チームの方 2 名が、毎回参加され、イベントの手伝いをされたり、保護者の悩み相談にのってくださったりする。

○活動の成果等

参加することで、保護者の方が先生や園の様子を知る機会となり、安心される。また、保護者同士の交流の場となり、悩みなどを気軽に相談できるようになる。

地域で活躍!!!

○活動の目的

地域の行事に参加することで、いろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合うことによって、地域の方々に親しみを持ち、人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わう。また、地域の方の愛情に気付き、地域を大切にしようとする気持ちを育てる。

○参加者（対象）

「戸田地区敬老会」…戸田小1年生児童2名

桜田幼稚園年中組園児・年長組園児の希望者

戸田小5年生児童の希望者

「いけいけフェスタ」…桜田幼稚園年中組園児14名・年長組園児13名

湯野小学校5・6年生児童8名

夜市小学校2年生児童24名

戸田小学校3・4年生児童70名

戸田小学校6年生の有志児童

桜田中学校3年生の有志生徒

○活動の内容（日時・場所・内容・特徴等）

10/2（日）「戸田地区敬老会」（戸田小体育館）

9:00～9:40 祝賀式…戸田小学校1年生：作文の朗読

9:45～11:10 発表…桜田幼稚園年中・年長組園児：ダンス

戸田小学校5年生児童：合唱

※ 戸田地区には、たくさんのお年寄りがおられ、皆、この日を楽しみにしておられる。子供たちがいるだけで、お年寄りはニコニコされ、その姿を優しく見守ってくださっている。



11/27（日）「西徳山いけいけ大収穫祭」（道の駅 ソレーネ周南）

〈ステージイベント〉

10:00～ オープニング…桜田幼稚園児年中・年長組：ダンス

10:20～ 湯野小学校5・6年生児童：表現

10:40～ 夜市小学校2年生児童：ダンス

11:00～ 戸田小学校3・4年生児童：合唱・合奏

11:20～ 桜田中学校1・3年生生徒：ダンス

※桜田校区内のお祭りでは、以前は戸田駅周辺で行われていたが、道の駅ができてからは、「道の駅ソレーネ周南」で開催されるようになった。毎年、幼稚園・小学校・中学校の子供たちが多数参加し、イベントを盛り上げる。上記のステージパフォーマンス以外にも、戸田小6年生がバザーやフリーマーケットを出店したり、桜田中学校の3年生がボランティアでステージの準備・後片付けをしたりしている。また、地域の方々が飲食店を出店されたり、餅つきのパフォーマンスをされたりもする。



○活動の成果等

毎年、桜田校区の子ども・保護者・地域の方々・お年寄りが集まる祭りである。特に、ステージイベントは大盛況で、ステージのまわりは、たくさんの人で埋め尽くされる。自分たちの住んでいる地域を盛り上げようとする気持ちが、伝わってくる。

日曜日に開催されるが、なるべく参加したいという気持ちが保護者にあり、担当学年のほとんどの子が出席している。このような気持ちが受け継がれ、戸田地域の風土を作っているのだと実感した。

今年は、あいにくの雨となったが、来場者からは、たくさんの笑顔が見られた。この優しく温かい雰囲気、子供たちを育てているのだと思った。

さつまいもクッキング

○活動の目的

- ・食生活改善推進委員の方々に先生となっていただき、自分たちで育てたさつまいもを使って、簡単なお菓子を作る。
- ・地域の先生を迎えふれあいを深めるとともに、自分たちが育てたものを使って活動をする喜びを味わわせる。

○参加者（対象）

岩国市立玖珂小学校 1，2 年生（全 5 学級）

○活動の内容（日時・場所・内容・特徴等）

〈日時〉

11 月 26 日（月） 2 - 1	12 月 5 日（月） 1 - 1
27 日（火） 2 - 2	7 日（水） 1 - 2
28 日（水） 2 - 3	

〈場所〉 保健センター

〈内容〉

- 1 食事の大切さや食品 3 分類の話を紙芝居で分かりやすく教えてもらう。
- 2 作り方の説明を聞き，6 班に分かれ食生活改善推進委員さんと共にお菓子作りをする。
- 3 できたお菓子を一緒にいただく。（会食）
- 4 片づけをする。
- 5 学校に返って振り返りをし，食生活改善推進委員さんにお礼の手紙を書く。

〈特徴〉

- ・自分たちで育てたさつまいもを使う。
- ・切る，ゆでる，つぶす等の調理作業を全ての子供が経験できる。
- ・調理するだけでなく，食生活の改善につながる学習を行うことができる。
- ・地域の先生と触れ合うことができる。



○活動の成果等

食に関する活動を伴う学習は、子供たちの興味・関心が高く意欲的に取り組むことができる。加えて、多くの食生活改善推進委員さんのご協力があることで、児童一人ひとりに調理を経験させることができる。学校では、30人もいると包丁を使わせることなどとうていできないが、それができるのが大きな収穫である。

低学年児童にとって様々な経験は重要である。すでに家庭でも調理の経験がある児童は、自信をもって活動に取り組み、再び家庭でも行うであろう。逆に、全く経験のなかった児童にとっては、家庭に帰ってやってみようという気持ちをもつきっかけになったようである。おみやげに調理レシピをいただいたことで、再度挑戦する意欲にもつながっていた。学校での活動が、家庭でも経験を重ねるといふ好循環を生んだ。

そして、1年生で経験し、2年生でも活動が続くことでさつまいもを育てることへの意欲も高まる。連続性のある活動であることが、児童の意欲と自信を育てている。



大きくなあれ、おいしくなあれ！～みんなでサツマイモを育てよう～

○活動の目的

＜小学校児童＞（生活科）

- ・ 校区内にある幼稚園の年長児や地域の方と一緒にサツマイモの苗を植えたり、育てたり、収穫したりする活動を通して、身近な人とかかわりながら野菜を育てる楽しさを味わう。
- ・ サツマイモ作りでお世話になった地域の方を「お芋パーティー」に招待し、感謝の気持ちを伝えたり、共に収穫を喜んだりする。
- ・ 運動場の遊具や学校の施設の使い方を園児に伝え、みんなで遊びを楽しむ。

＜年長児＞

- ・ 1年生と一緒に小学校の畑でサツマイモを育てる活動を通して、小学校を身近に感じたり、野菜作りを楽しんだりする。
- ・ 1年生と遊んだり、小学校の遊具や施設を利用したりする体験から入学を楽しみにする気持ちをもつ。

○参加者（対象）

- ・ 田布施西小学校 1年生児童(35名)
- ・ 田布施幼稚園・神の国幼稚園年長児(21名)
- ・ 学校支援ボランティア(4名)



○活動の内容（場所・日時・内容・特徴等）

サツマイモの苗を植えよう・運動場で遊ぼう①

平成28年6月3日(金) 田布施西小学校 栽培園

- ・ 1年生と年長児との第1回目の交流活動である。自己紹介と挨拶の後、児童と園児が2～3人で一組になり、一緒に苗植えを行った。初めは互いに緊張や不安を感じていたようだが、畑で作業をするうちに次第に打ち解けていった。ふれ合い遊びの時には、仲良く手をつないで運動場に移動したり、やってみたい遊びを園児に優しく尋ねたりしている1年生の姿が見られた。また、前日までに学校支援ボランティアの方が畑の畝作りをして、サツマイモの苗植えの準備をしてくださった。当日は、苗の植え方を実演しながら分かりやすく子供たちに教えてくださった。

サツマイモをほろう・運動場で遊ぼう②

平成28年11月7日(月) 田布施西小学校 栽培園

- ・ 第2回目の交流では、大きく育ったサツマイモを協力して収穫する活動を行った。学校支援ボランティアの方が事前に芋のつるを刈り、マルチシートを

除いて子供たちがサツマイモを収穫しやすい状態に畑を整えてくださった。子供たちは前回の交流と同様2人～3人で組を作り、力を合わせて土を掘り、大歓声を上げながら楽しく芋掘りを行うことができた。芋掘りの後のふれ合い遊びでは、6月よりも子供たちが自主的に遊ぶ姿が見られた。自分たちで鬼ごっこを始めたり、広い運動場を徒競走のように思い切り走ったり、のびのびと動く様子が見られた。



おいもパーティーをしよう

平成28年12月15日(木) 田布施西小学校 家庭科室



・収穫したサツマイモをみんなでおいしく食べようと児童に投げかけたところ、お世話になった地域の方を招待しようという意見にまとまった。そこで、感謝の気持ちをどのように伝えるかクラスで話し合った。「手紙」「お礼の言葉」「歌」「楽しい会食」という子供たちの考えをもとに「お芋パーティー」を開くこ

とにした。お礼の手紙の中には、地域の方への感謝を素直に表した内容やこれからまた一緒に地域の方や幼稚園の友達と何かしてみたいという願いが書かれたものもあり、人とのかかわりが広がり深まったことを実感できた。

○活動の成果

1年生の児童と園児との交流を「サツマイモを育てる」ことを軸に複数回もち、小学校の施設を利用しながら一緒に遊ぶという活動を組み合わせた。そして、地域のボランティアの方にも活動に参加していただくことができた。1回目、2回目と交流を積み重ねることにより、互いの人間関係が深まり、自然にコミュニケーションがとれるようになっていった。

園児と児童の様子を見守ってくださる地域の方、教員と保育士の交流、また教員、保育士と地域の方が子供を通してつながっていくことで、「サツマイモを育てる」という一つの活動がより幅広く、豊かなものになった。1年生の担任としての立場から振り返ってみるだけでも、植物を育てる楽しみ、収穫の喜び、異年齢の友達とのかかわり方を学ぶこと、人から感謝されること、人に感謝し、その思いを伝えること等、子供たちが生きていく上で大切なことが活動の中に多く含まれていたと思う。学校の枠をこえ、地域とつながった活動を仕組むことにより、子供たちの成長を促す新しい視点を得ることができた。

交流活動を支えてくださる地域の力を知ろう

○活動の目的

1回だけの交流ではなく、サツマイモを育てることを通して長く交流しながら、いろいろな経験と学びを得ようという交流活動。この活動を見えないところで支えてくださる地域の学習ボランティアの方々がおられることを子供たちに知らせ、感謝を表すことで、多くの方に支えられていることを知らせる。

○参加者（対象）

小野田めぐみ幼稚園とるんびに幼稚園の年長児および小野田小学校2年生

○活動の内容（日時・場所・内容・特徴等）

6月14日 小野田小学校学習園 サツマイモの苗植え

○このサツマイモ畑作りを地域の学習支援ボランティアの方が担ってくださっていることを知る。

10月14日 小野田小学校学習園 サツマイモ畑の草取り

○草取りの始めの会で、畑を作ってくださった学習支援ボランティアの方を子供たちに紹介。サツマイモのお話を聞き、みんなでお礼を言い、一緒に草取りをした。

11月10日 小野田小学校学習園 サツマイモ掘り

○学習園で掘ったサツマイモをいろいろな場面でお世話になった学習支援ボランティアの方々に日頃のお礼としてお配りした。

12月8日 小野田小学校裏庭 焼き芋大会

3学期 各園と小学校 サツマイモの作品交流

○育てたサツマイモの観察や製作物を交流させようという計画。学校と幼稚園間だけの交流にするのではなく、保護者や地域の方も見られる場で展示し、交流への理解を進めていけるのではと期待している。

○活動の成果等

以前から学習園作りでも地域の方にご助力いただいていたが、今回それを子供たちにも知らせることで見えないところで自分たちを育ててくださる力のあることを教えることができた。また、これを機に、幼稚園児にも地域の方との関わりについて学ぶことの意義を教職員間で考えることができた。



先進地等から学ぶ

幼保・小連携及び地域との連携に関して先進的な取組を行っている市や幼稚園の訪問、研究機関等の研修会への参加を通して、地域との連携や地域との連携を計画的に位置づけた接続期のカリキュラム作成につながる情報を収集した。

訪問等日	訪問市	訪問先/参加研修	訪問・参加者
H28 7/27	横浜市	平成28年度幼稚園・保育所・小学校連携研修会	県指導主事
11/19	明石市	神戸大学附属幼稚園・附属小学校 平成28年度研究発表会	幼児教育長期研修派遣教員
11/22	岡山市	岡山市立富山幼稚園，岡山市教育委員会	県指導主事
11/24	京都市	京都市立中京もえぎ幼稚園，京都市教育委員会	県指導主事 周南市保育幼稚園課 課長補佐
12/2, 3	広島市	平成28年度広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校 第19回 幼小中一貫教育研究会	幼児教育長期研修派遣教員
H29 2/3	京都市	京都教育大学附属桃山地区学校園 平成28年度教育研究発表会	岩国市, 光市, 和木町 指導主事

○ 県外研修報告「今後の取組に生かしたいこと」等

(1) 幼児教育長期研修派遣教諭の報告書から

・幼小の教員が、育てたい子供の姿や身に付けさせたい資質・能力を長期的なスパンで共有することで、幼児期に培われてきた力の更なる伸長や、子供の成長の細かい見取りが可能になる。そのため、幼児期に経験を通して育てている力を、もっと小学校教員が知るべきであり、自分がその指命を果たさなければならない。
また、小学校では、生活科を中心とした合科的な取組をより柔軟に行わなければならない。

・忙しい生活の中で、目の前の仕事をこなすことだけになってしまいがちであるが、一步引いた視点に立って、子供たちの5年後、10年後、20年後を想像してみることで、「今、大事に育てなければならないこと」が見えてくるはずである。
体験の中から多くを学ぶ子供たちには、地域との連携も大切にしながら、先を見据えた活動を仕組んでいくことが大切である。教師自身も新しい環境や視点に立って、日々の実践を捉え直すことが必要である。

(2) 指導主事等の報告書から

・幼稚園は比較的、地域に出かけたり、地域の人に行事を助けていいたりすることが多くある。この点では、地域と早くからつながっているのだが、系統立てる、組織に位置づけるという部分が苦手であり、十分に地域の力を生かしていない状況がある。訪問を通して、子供たちがより豊かな経験ができるよう、知恵と力を貸していただける地域と保護者とともに、楽しんで子育てをし、子供の育ちを支えていく場をつくりたいと強く感じた。幼稚園で今行っていることを整理しながら、その方法を行政も一緒に考えていかなければならない。

1 幼稚園における「やまぐち型地域連携教育」の推進

成果の検証

課題と展望



「地域連携教育調査研究実行委員会」の取組の成果～地域を題材とした遊びの実践～

平成28年12月に示された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会）を踏まえ、以下の2点から幼児の学びを検証した。

1 子供の姿容～アクティブ・ラーニングの三つの視点から～

○ 主体的な学び

遊びの対象が「自分が暮らす地域」ということで、子供が具体的にイメージがしやすく、知っていることが多い。そのため、どの子供もためらうことなく、遊びに集中することができる。実際に子供達は、自分が知っていることを生かしながら、自分たちの町づくりを楽しむことができた。



○ 対話的な学び

友達と話し合いながら、自分が暮らす町のイメージを共有し、制作につなげていた。マップに自分が作った建物の制作物を配置していくために、自分の制作物について友達に伝える場を設定することで、子供は自分の思いを伝え、受け入れられる喜びを体験することができた。



このような共通の目的に向けた活動を行うことで、友達と活動する良さや楽しさを感じ、自分の成長を実感できる。

○ 深い学び

「マップづくり」を通して、子供たちにとって改めて自分が暮らす町を見つめ直す機会となった。じっくりと園の周りや、建物の様子を見ることで新たな気づきや発見が続いた。



これらの学びは、地域を学習の場とする「生活科」の内容につながるものである。また、子供たちが友達と話し合いながら遊びを広げる姿からは、「学びに向かう力」の土台が育まれていると考えられる。

2 子供の姿容～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿から～

○ 「社会生活との関わり」の観点から

活動全体を通して、子供たちの「地域」に対する親しみを増すことができた。具体的には以下の3点である。

① 地域に対する興味が芽生える

遊びをさらに楽しいものにするために、自分が暮らす「地域」に興味関心を向ける機会となった。「なにがあるのかなあ」「こんなたてもものもあるよ」

② 地域の中の自分に気づく

改めて自分が暮らす「地域」を観察し、自分が住んでいるところを意識する機会となった。

③ 地域の温かさに触れる

自分たちが作った「マップ」を地域の文化祭で展示発表した。地域の方にほめていただいたことで、うれしさと達成感を感じ、埴生（地域名）の温かさを共有した。

モデル地域を中心とした取組の成果

(1) 体制作り～組織的・継続的な取組への第一歩～

・ 幼小連携運営協議会の発足

モデル地域指定をきっかけとして、小学校のコミュニティ・スクールを活用した「幼小連携運営協議会」を開催することができた。

幼稚園と地域を含めた活動計画や、地域での体験活動の在り方等について熟議し、連携した取組を組織的に行う素地をつくることができた。

(2) 新たな交流の動き～成長を支える輪の広がり～

① 小学校と幼稚園の連携の活性化

- ・ 幼児教育長期研修生が「園内コーディネーター」として、小学校との連携、小学校を通して地域とのつながりづくりを進めた。日常的な教員同士の交流が始まり、アイデアを出し合うことで、小学生と園児の交流の機会が増えた。
- ・ 小学校と幼稚園は隣接でありながら、互いに遠い存在であったが、人の行き来が盛んになることで、教員の心理的な距離が縮まり、幼小を一体として考える雰囲気が醸成された。

② 幼稚園と地域の連携の活性化

- ・ 地域の方の協力により、「芋掘り」や「アユの放流」など子供たちの心の成長に不可欠な「心を揺さぶる直接体験」を実現することができた。
- ・ 地域の方との交流が増え、その中で、子供が安心して活動する様子だけでなく、地域の方々の笑顔も印象的である。地域の連携を進めることは、「地域の活力」につながっている。

(3) 子供の変容～地域がより身近に～

① 地域に対する安心感の芽生え

- ・ 地域の方と接する機会が増え、子供たちにとって顔なじみの「おじちゃん、おばちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん」が多くなった。このことにより、地域で子供から大きな声であいさつをしたり、気軽に声をかけたりするようになった。地域が子供たちにとってより身近に感じられるようになっていることがうかがえる。

② 地域に対する愛着の芽生え

- ・ 「芋掘り」などの活動の度に、教員からも地域の方々のおかげであるということ子供たちに伝え、「ありがとうございます」と言葉で感謝の気持ちを届けるようにしている。この積み重ねは、子供自身が地域の方に支えられていることを知り、地域の温かさや良さを実感しながら、「ふるさと」への愛着を育てていくものと考えている。

(4) 教員の変容～多面的な幼児理解へ～

- ・ 地域の方との交流の中で、子供の新たなよきなどを発見することができる。

課題と展望

<課題と展望>

モデル地域において、幼小連携運営協議会が発足し、地域と幼稚園の計画的な連携がスタートしている。今後は、この取組の継続と全県への成果の普及が課題である。

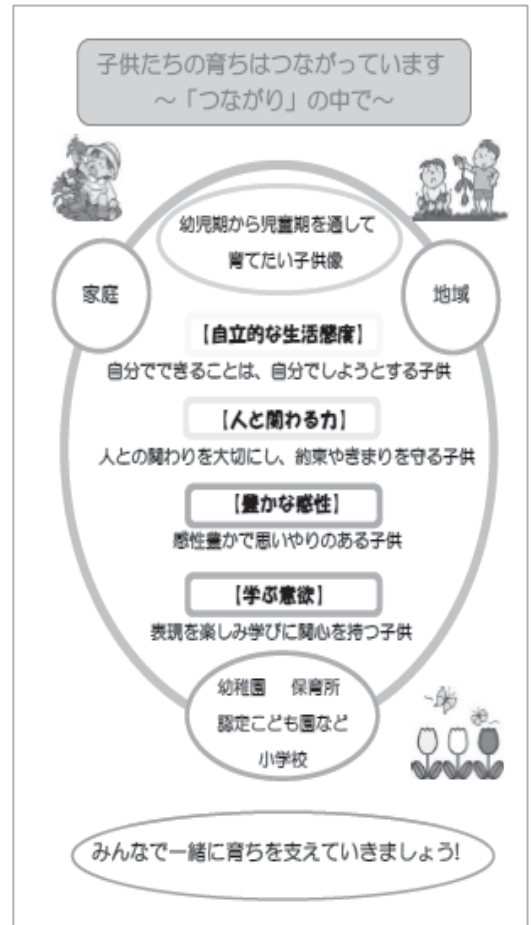
本協議会は、新たな会ではあるが、構成メンバー等は既に小学校の学校運営協議会の委員や幼稚園の評議員であるなど、「今ある財産」を活用したものである。この工夫は、幼稚園のコミュニティ・スクール化への鍵ではないかと考える。

もともと幼稚園と地域のかかわりはあるものの、組織的・計画的なものではなく、例えば管理職等の異動があれば、その状況が変わるということもある。子供たちの成長に必要な体験活動を、継続的に必要な時に実施できるよう、幼稚園のカリキュラムだけでなく、地域の力、人材を確保できるように地域の組織・計画にも位置づける必要がある。そして、人のつながりがアイデアを豊富にし、体験活動のバリエーションを広げることから、定期的に幼稚園の教員と地域の方が顔を合わせ、話し合うことができる場が必要である。

以上のことから、それぞれの幼稚園にある「人のつながり」を整理し、教員が代わっても継承される「幼稚園の応援団」として、地域の実情に応じた組織的・計画的な取組が継続するシステムづくりに向かわなければならないと考える。

今後、引き続きモデル地域での取組を進めるとともに、その成果や先進地視察で得た情報を全県に普及することで、まずは、幼稚園と地域のつながりの重要性を伝えたい。併せて、地域と連携した組織的な園運営の必要性を示し、リーフレットのイメージ図が示すように、園・家庭・地域がつながり、子供の成長を支える環境を根付かせたいと考えている。

この過程は、幼児期の教育のみならず、社会総がかりで子供たちの学びや育ちを見守り支援する「やまぐち型地域連携教育」の深化・充実にもつながるものと期待している。



就学前の保護者向けリーフレット
「つながる子供の育ち」平成28年3月より

2 幼保・小連携のための参考資料

～幼児教育長期研修派遣教員の実践より～

○接続期カリキュラム

○交流計画

○スタートカリキュラム

山陽小野田市では、今年度市内全ての小学校区において、接続期のカリキュラム「リンクリンクカリキュラム」を作成しました。

本資料は、山陽小野田市の幼児教育長期研修派遣教員を中心に、在籍する小学校区内の幼児教育施設と協議を重ね、作成されたカリキュラムです。

今後、子供の実態等に応じて、内容等の見直しを図りながら、活きたカリキュラムづくりを進める予定です。



山陽小野田市 リンク リンク リンク カリキュラム【育てたい子供像】

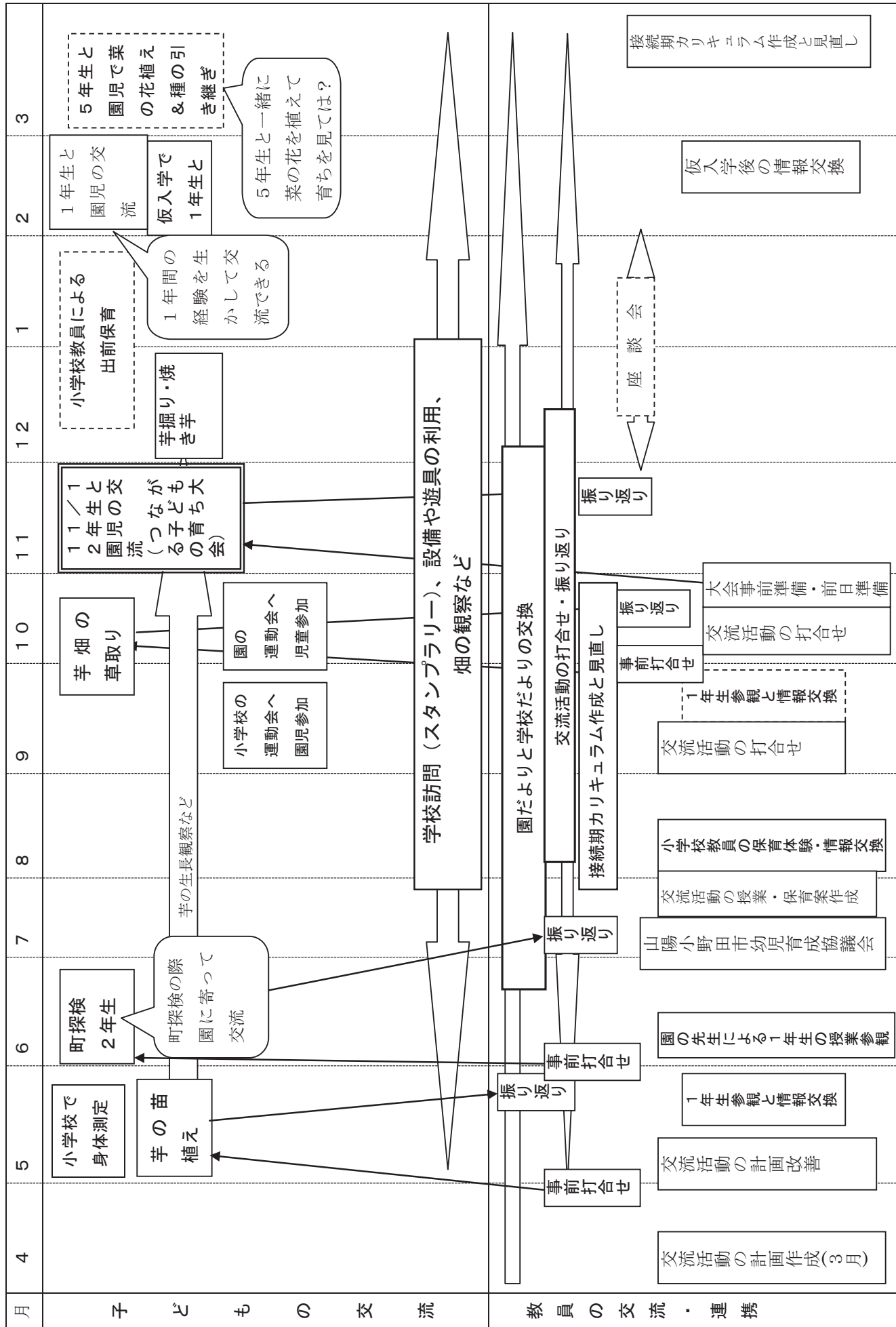
育てたい子供像	5歳児	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
	◆自分なりに考え、友達と役割を分担し、協力しながら遊んだり、生活したりする。 ◆1日の生活の流れを意識して行動する。 ◆秋の生活のリズムが分かり、見通しをもって遊びや生活に取り組む。 ◆友達と一緒に体を十分に動かしながら、様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。 ◆誰に対しても、気持ちのよいあいさつや返事を進んでする。 ◆食事のマナーや箸の持ち方を意識して食べる。 ◆トイレの使い方が上手になり、排泄後、自分で始末する。 ◆気候や活動に応じて、衣服を調節する。 ◆道具や道具の種類別に片付けたり、ごみ拾いをしたりする。 ◆遊び方や遊具・用具の使い方がよければ危険が生じることがあり、きまりを守って安全に遊ぶ。 ◆仲間意識が強まり、友達と考えを出し合ったり、工夫したりして、遊びをより楽しくしようとする。 ◆友達とのトラブルを経験し、よいことと悪いことを自分なりに判断する。 ◆みんなで楽しく遊んだり、生活したりするためには、約束やきまりを守ることが大切であると気づき、自分から守ろうとする。 ◆聞くときと話すときの区別ができる。 ◆みんなで使うものを分けたり、譲ったり、一緒につかったりする。 ◆難しいことでも、がんばって取り組もうとする。 ◆最後までやり遂げる楽しさや満足感を知る。 ◆音楽あそびや造形あそび、劇あそびなどを通して、自分なりのイメージを広げたり、友達と一緒に表現したりする。 ◆一緒に遊ぶ中で友達の思いに気づき、困っている友達に優しい言葉をかける。 ◆絵本や物語などに親しみ、おもしろさや楽しさ、温かさ、悲しさを感じ取る。 ◆育てている花や野菜、飼っている生き物の成長を楽しみにしながら世話をする。 ◆地域の人と触れ合い、人とかわるものの楽しさを味わい、感謝の気持ちをもつ。 ◆身の回りや素材を使っていろいろなものを工夫してつくり遊んだりして楽しむ。 ◆思ったことや感じたこと、イメージしたことを、絵や言葉や身体で表現する。 ◆歌を歌ったり聴いたり、曲の調子に合わせてリズムを打ったりする。 ◆自分の思いや経験したことを相手に分かるように話したり、相手の思いを受け取ったりしながらやり取りを楽しむ。 ◆遊びの中で、教を教えたり時間を意識したりして、自分にとってかわりのある数や量、時間等に興味をもつ。 ◆遊びを通して文字などで伝える楽しさを味わう。 ◆いろいろな遊びを楽しむながら、文字や数に興味をもつ。	◆自分なりに考えて行動し、進んで学習や活動に取り組む。 ◆小学校での生活の流れが分かり、時間に合わせて行動したり、見通しをもって学校生活を送ったりする。 ◆きまりをつくらせたり活動を工夫したりして、様々な活動に楽しんで取り組む。 ◆あいさつの大切さや時と場合に応じた言葉づかいや動作が分かり、いろいろな人と接する。 ◆学校給食の様子や進んで準備ができる。 ◆1年生だけで給食当番の仕事ができる。	◆衛生的トイレの使い方が分かり、学校の生活時間に合わせて排泄する習慣を身に付ける。 ◆活動内容に応じて自分で衣服を調節したり、手洗い、歯みがきなど身の回りを清潔にしたりする。 ◆ほうきやぞうきんの使い方を覚える。 ◆ロッカーや引き出し、道具袋の片付け方を覚える。 ◆安全な登下校の仕方が分かる。 ◆学校生活での危険な場所や行動が分かり、安全な行動を考える。 ◆友達とお互いに助け合いながら、物事に取り組む。 ◆友達と活動する中で自分のよさに気づき、自信をもって生活する。 ◆よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。 ◆約束やきまりを守る必要性に気づき、場や活動に応じて行動する。 ◆場に応じて聞き方や話し方を覚える。 ◆人の話を集中して聞き、返事をしたり、適切な受け答えをしたりする。 ◆みんなで使うものや場の使い方が分かり、それらを大切に使う。 ◆めあてをもって課題に挑戦し、達成感を味わったり、次のめあてをもつたりする。	◆身近な自然を観察し、四季の変化を感じ取ることができる。 ◆学習や生活の中で、自分なりのイメージを豊かにする。 ◆グループの友達と一緒に、励ましたり助け合ったりして学校生活を送る。 ◆困っている友達の相談のつたり、手助けをしたりするなど友達と一緒に生活することを喜ぶ。 ◆絵本や教科書の物語などに親しみ、 ◆絵本や教科書の物語を読んで想像を広げたり、心動かされたりする。 ◆動植物を育てる中で、命の存在や大切に気付く。 ◆学校生活がいろいろな先生方に支えられていることを知り、感謝の気持ちをもつ。 ◆自分たちの生活が周りの人々に支えられていることを知り、感謝の気持ちをもつ。 ◆季節によって生活の様子が変わることや気づき、自分たちの生活を工夫したり楽しんだりする。 ◆材料や形、色から発想し、工夫してかいたりつくりたりする。 ◆様々な表現活動を楽しみ、友達の表現のよさに気づく。 ◆音楽を楽しんで聴いたり、歌ったり、表現したりする。 ◆様々な音楽活動を楽しむ。	◆数や教えたり、簡単な計算をしたりする。 ◆ひらがな、カタカナを学び、本を読んだり文字を書いたりする。 ◆その日にあったことなどを文にして書くことを楽しむ。					
自立的な生活態度										
人とかわかる力										
豊かな感性										
学ぶ意欲										

「つながる子供の育ち～幼保・小連携のさらなる充実のために～」平成26年3月 山口県教育委員会作成

山陽小野田市 小野田めぐみ幼稚園・小野田小学校 リンク リンク カリキュラム(活動を中心に)

	5歳児	11月	12月	1月	2月	3月	1年生	4月	5月	6月	7月
めあて	<p>・友達とともに力を合わせてがんばることや、励まし合ったり、育ち合うことの喜びを大切にすること。</p> <p>・友達と関わり合いながら、さまざまな発想を出し合い、工夫し合ったり、遊びを展開していく。</p> <p>・もうすぐ1年生という自覚を大切に、いつでも神の子として自主的に活動する気持ちを大切にすること。</p>										
自立的な生活態度	<p>○朝のマラソン ○マラソン大会に向けての練習</p> <p>○大掃除 ・ぞうきん をつかって</p> <p>○マラソン大会</p> <p>○行動・チャイムの合図で、黙って行動する。</p> <p>○給食:自分に合った量を調節し、時間内に食べる。○自分たちで配膳する。</p>										
人とかかわる力	<p>○お土産さんごっこ</p> <p>○当番活動 ○よいところみつけ</p> <p>○生活科 学校探検</p> <p>○生活科 1年生と仲良く</p> <p>○町内児童会</p> <p>○国語 こんどき</p> <p>○ペアそうじ(6年生と一緒に) ○道徳教育・学活など</p>										
豊かな感性	<p>○クリスマス会練習</p> <p>○伝承遊び</p> <p>○音楽遊び・リトミック ○よいところみつけ</p> <p>○生き物の飼育</p> <p>○詩の暗唱</p> <p>○卒園式の練習</p> <p>○音楽祭</p> <p>○卒園式</p> <p>○生活科 そだてよう アサガオ・虫たち</p> <p>○生活科 夏となかよし</p>										
学ぶ意欲	<p>○朝のマラソン ○マラソン大会に向けての練習</p> <p>○習字</p> <p>○大マラソン</p> <p>○生活・国語 名刺交換</p> <p>○生活科 朝のスピーチ</p> <p>○国語 音読発表</p> <p>○算数 けいさん名人</p>										
家庭との連携	<p>○就学時健康診断</p> <p>○園での座談</p> <p>○返入学</p> <p>■下校時刻のお知らせ ■週予定表の配布 □次の日の持ち物を自分てそろえる。</p> <p>■親子ふれあい活動 ■選抜訓練・引き渡し訓練</p> <p>■学期個人懇談</p>										
幼保小の連携	<p>○2年生と交流 「おもちゃランドへようこそ」</p> <p>○交流 小川フェスタ参加</p> <p>○交流 小学校グラウンドでのマラソン練習</p> <p>○交流 小学生と一年生の交流</p> <p>○情報交換</p> <p>○カリキュラムの見直し 5年生と菜の花種え&種の引き継ぎ</p> <p>□幼保小連携計画協議</p> <p>□1年生授業参加と情報交換会</p> <p>園だよりと学校だよりの交換 交流活動の打合せ・振り廻り</p>										

平成28年度 連携・交流活動計画



おわりに

本委託事業では、幼児期の教育の充実を図るために、幼児教育長期研修の派遣地域を中心に、幼稚園を核とした地域との連携充実に関する調査研究を行った。

その一環として訪問した京都市は、「地域で子供を育てる」という文化が長い年月をかけて根付いている。その中で、京都市立中京もえぎ幼稚園の永本多紀子園長の「幼稚園は『地携連携』と『幼小連携』が大切。」というお言葉が印象に残っている。まさに本調査研究で注目した「幼稚園における地域との連携」は、今後の幼稚園の活性化の大きな鍵になるのではないかと考える。

県としては、本調査研究の歩みとともに、山口県独自の幼児教育長期研修等を生かし、市町教育委員会と連携しながら、子供たちが地域の中で伸び伸びと成長し、その学びや育ちがしっかりと小学校に引き継がれる確かな流れをつくっていきたいと考えているところである。

最後になりますが、本調査研究にあたり、心よく訪問を受けてくださった、岡山市教育委員会、岡山市立富山幼稚園、京都市教育委員会、京都市立中京もえぎ幼稚園を始め、御指導・御協力いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

本報告書は、文部科学省の「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」の委託費による委託業務として、山口県が実施した平成28年度幼児期の教育内容等深化・充実調査研究の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

山口県教育庁義務教育課
〒753-8501 山口市滝町1番1号
電話 083-933-4600
平成29年3月

